

体験学習
「震災後72時間の生きる」
「地域への正しい情報発信と情報モラル」

2012年6月5日

主催 NPO法人ブロードバンドスクール協会(BBS協会)

「体験学習」

①震災後72時間生きる

②地域への正しい情報発信と情報モラル

・ 目的

- － 被災した際の生存は72時間が限界と言われています。さらに、震災後、72時間は行政などの支援が届かないとも言われています。ただし、実際に何故、72時間なのか、そうした状況乗り越え、生き残るためにどうすべきか、その後の体制はどうするのか、についてはほとんど情報がなく、正確な知識が必要です。
- － この体験学習では、実際にその72時間をどうやって生き残るのか？そして72時間目以降の救助・救援の体制を同構築するのか、さらには、正しい情報の仕方、方法を情報モラルの重要性を交え、体験学習を通して学んでいただきます。
- － 体験学習を通して、地域の防災リーダーを育成し、有事の際に生命を守り、地域生活を守れる社会作りの支援を行います。

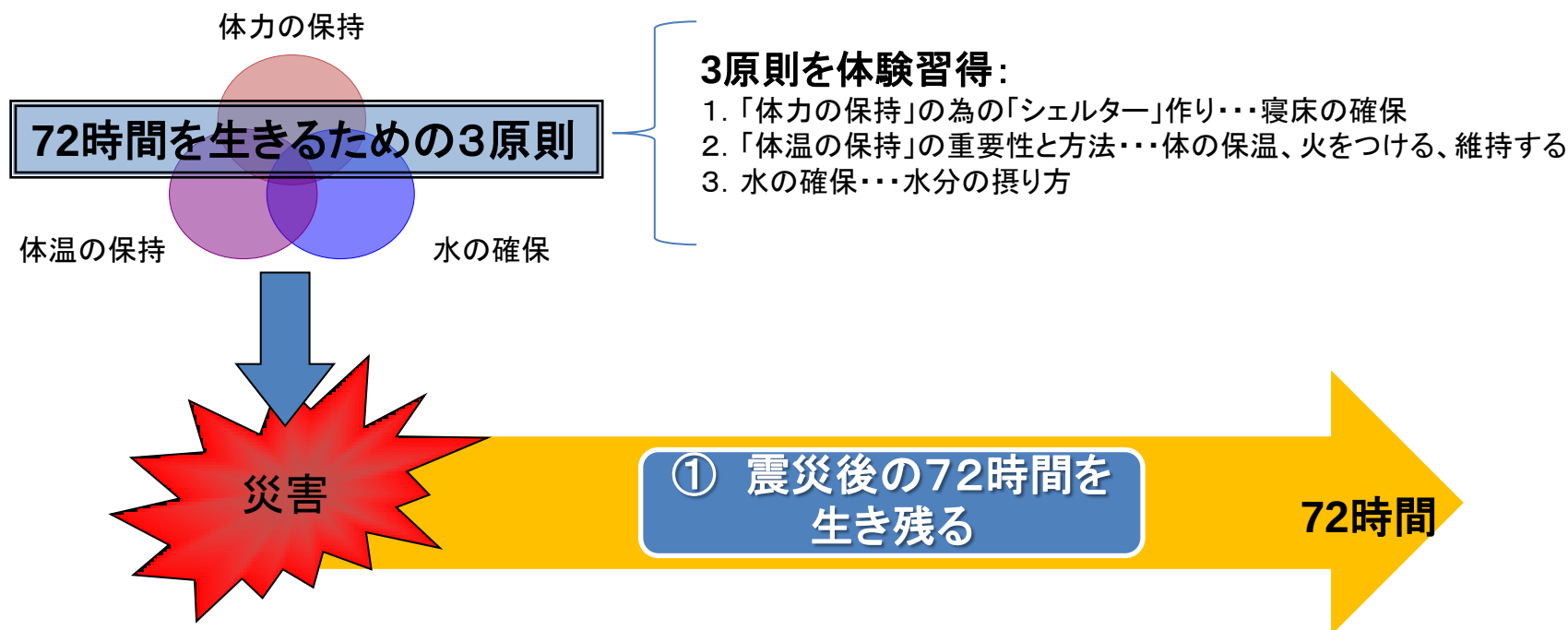
体験学習の内容

- **2部構成の体験学習**
 - ①震災後の72時間生きる
 - ②地域への正しい情報発信と情報モラル
- **Ustreamによるリアルタイム学習と復習** (今年度提供予定)
 - 体験学習のコンテンツは、Ustream上にはブロードバンドスクール協会の専用チャンネルにてご覧いただけます。生放送はもちろんのこと、過去のコンテンツもご覧いただけます。
<http://www.ustream.tv/channel/bbsch>

体験学習① 震災後の72時間を生きる

体験学習①概要:

震災など大きな災害が発生した場合、人員の不足や資機材の不足による搜索や救助が難航することが予測されます。このプログラムは震災後から72時間を生き残り、その後も救助・救援を待てる体制を作ることを目的としたものです。また、プログラム内でお伝えする技術は、遭難事故などでも利用できる汎用性の高い技術です。



本プログラムは、通常【講義3時間＋実技2時間】程度で構成され、簡単なロープワークなども指導しています。今回は、屋外でシャルターの材料となる廃材(震災時に必ず手に入るもの)などを準備をした環境でスタートすることを前提として実技を入れて半日(体験学習形式)で構成しています。参加者の方々には、「なるほど!!」と感じて頂くことはできますが、実際に出来るようになるには少し時間が必要であることをご理解頂ければ幸いです。

体験学習②「地域への正しい情報発信と情報モラル」

今秋提供予定

体験学習②概要:

情報モラルとは実社会の中で情報を適切に収集し正確に発信することで、トラブルを未然に防ぐための知識と行動の指針です。このプログラムでは震災後から72時間以降、地域の、どのような情報をどのように配信すべきか、情報モラルの考えとともに学習します

体験学習②の内容:

1. 緊急災害時には、まず、災害発生から72時間は自己の生命維持・身体の安全にプライオリティを置く。次に、精神衛生、食糧、そして、通常の生活に戻ることを念頭に置く。このことを、災害発生前から、日常的に市民に対し、啓発普及することが大切である。また、メディアとして発信する側もこれらを踏まえ、表現し、伝達する。
2. 事実に基づいた正しい情報発信、すなわち報道を行い、コミュニケーションを深めることで、信頼関係を構築する。
3. 緊急災害時には、既存のメディアも被災することが、多々あり、市民自身が保管代替し、正しい情報を取捨選択し、発信する。
4. ICT(インターネットラジオなど)を使った情報発信体験学習



災害

① 震災後の72時間
を生き残る

72
時間

② 正しい情報発信と
情報モラル

体験学習① 震災後の72時間生きる

2時間ダイジェスト版の実施報告

- **実施概要(参加者募集時告知内容)**

- 開催日:6月3日 日曜日
- 開催時間:午前9時から11時半
- 場所:練馬総合運動場(練馬少年ラグビースクール練習場をお借りします)
- 体験学習内容:半日版を2時間に短縮したダイジェスト版
- 主催:BBS協会
- 協力:練馬少年ラグビースクール、ゼンリン
- 講師:ZOAS浅野、BBS協会サポート:久保田、田辺、高橋、眞柄
- 当日の服装:
軽い運動をされる際の服装および運動靴でお越しください。
- 当日持参いただくもの:
筆記用具。
体験セミナーで使用するものは全て我々でご用意いたします。
防災グッズなどお持ちで、実際の震災に本当に有効なのかどうか?など、質問があればその場で浅野さんよりご回答いただけますので、余裕があれば防災グッズを持参ください。
- 参加者:20名
 - 今後BBS協会と協働可能な団体責任者(NPO法人シブヤ大学、早稲田ビジネススクールアントレプレナー研究会、ラグビーマガジン、サークルKサンクス)
 - 練馬少年ラグビースクールコーチ、父兄

体験学習① 震災後の72時間生きる

2時間ダイジェスト版の実施報告



浅野講師により、本セミナーの目的、ゴールの説明

- ・サバイバル3原則(体力保持、体温保持、水確保)が72時間生きるための基本原則であることの解説。
- ・有事の際、我々の平時のモラルが適用できない状況となり、時間経過とともにモラルが変わってゆく経過を実際のトリアージュにおける被災地現場の事例(黒いトリアージュを受けてしまった場合は助かる望みがあっても救助困難など)と共に説明。有事の際に起こり得るこうした状況を予め認識、想定した上で、自身の生命、地域の安全を守る、今回の体験セミナーを受講して欲しい。
- ・以上に加えて、浅野講師により策定した、被災時の心得8箇条を念頭に講習会をすすめた。

被災時の心得8箇条

被災直後

時間経過

1. 自分の安全を優先する
自分の安全を確保できない救助は救助ではない。自分の安全を第一優先に考えましょう。
2. 休みをとしましょう
体調や気持ちに正直になり無理な行動はしないで適切に休養をとしましょう。
3. すぐにリラックスしてはいけません
避難所に到着するまでは、危険に曝されている事を忘れない。
4. 使いこなせない道具は持たないように
自分が使いこなせない道具は不必要。自分が使える道具を選択しましょう。
5. 使えない道具は持たないように
壊れたり、壊れる可能性のある道具は行動を阻害します。道具や避難袋の点検を必ず行いましょう。
6. 間違った行動をとらない
不安に感じるのは皆同じ。自分の感情を抑えて、その場の環境に適さない行動や態度は慎みましょう。
7. 不愉快なサインを送らない。
不安に曝されてストレスが高まる。相手が不愉快と思えるサイン(仕草・ボディランゲージ)を発しないように注意をしましょう。
8. いい加減な調査はしない
被災後に必要な情報を得る為には、被災前に「必要な情報が何か」知る必要があります。
自分や家族の為に必要な情報は何か事前に調べておきましょう。

注意すべき事項

1. 時間の経過により注意すべき内容が変化する。
 2. 被災直後に必要な情報は自分を中心とした半径30m程度。余分な情報はマイナスな効果を生むことがある。
 3. 6以降は避難所生活などで欠かせない項目。
- ◆事項の実技に合わせて8箇条を通じた災害時の心得を説明。

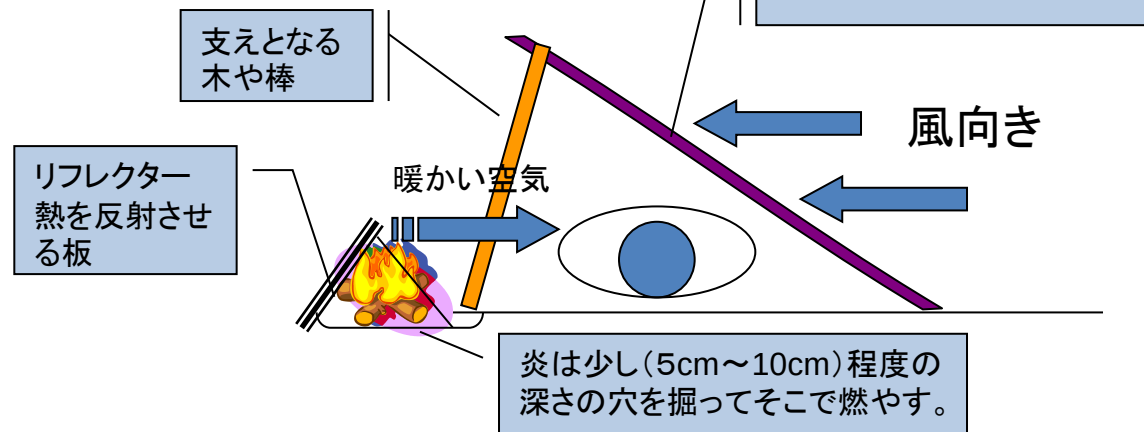
体験学習① 震災後の72時間生きる 2時間ダイジェスト版の実施報告

サバイバル3原則「体力の保持、体温の保持、水の確保」に関わる 実技項目の概要

1. 体力の保持【差掛け型シェルターの作成】

差掛け型シェルターとは簡易的に作る寝床の事で、構造は単純。
被災後のシェルターの役割は、体力を温存する事と休養を取る場所に使用する事であり、
その構造は単純である必要がある。

ここで提供するシェルターは
長期間そこで生活する事を
想定していません。あくまで
移動(帰宅途中)や避難所に
場所が無い場合に簡易的に
使用するものと考えています。



2. 体温の保持【自家製寝袋】

コンビニエンスストアで購入できる薄手の合羽を新聞紙などを利用してダウンジャケットを作成。
また、45Lのゴミ袋も同等に利用でき、この二つが作れて風が当たらない場所が見つかれば、火がなくても
十分に生存できる。また、低体温症の怖さを指導し“濡れる事を極力さける必要性”を覚える事も重要。

3. 水は絶対に必要なのですが・・・

水は命に関わる大事なツールですので絶対必要なのですが、各種マニュアルにあるように1日(2L)×日数×人数
は現実的ではありません。携帯用濾過器を推奨。新聞紙とペットボトルを利用した濾過器を作成できるが、非常用と言う
観点で推奨。

また、給水などを受けられた場合に備えてペットボトルは空いてもとっておく必要がある。

体験学習① 震災後の72時間生きる 講習会の模様

市販の防災グッズと、72時間生きるため防災グッズの比較

防災グッズの中身について

- ・市販の防災グッズ(約15KG)を3原則に照らし合わせ、72時間以内に①必要(左下写真左)、②あってもよい(左下写真中)、③不要(左下写真右)、のグループに分けてなぜ必要か、不要か、を論理的に説明。浅野講師推奨の防災グッズと比較すると、72時間以内に必要なものはごくわずか。
- ・カンパンなどは缶に入っており、かさ張るため、携帯には不向き。同じカロリーを市販のかさ張らない栄養補給食で摂取可能。
- ・ビタミン摂取のためのサプリメント、薬を準備しておくことも重要。
- ・水は重たいので必要最小限とし、携帯用濾過器(浄化ストローなど)の携帯を推奨。
- ・空のボトルは有効なので携帯すると便利。
- ・通常、市販防災グッズに含まれていない、笛、点灯・点滅が容易な形式の懐中電灯、救急・救命用具(感染防止のゴム手袋、メガネ、マスク、マジックなど)、ナイフ、麻縄(火種)などについては今後BBS協会として推奨する浅野式防災グッズとして情報公開してゆく予定。

防災グッズを入れるザックについて

- ・防災グッズを入れるザックは、両手が使えること、使用時に背中から回して前に簡単に回せることから、片斜めがけのものを推奨。
- ・ザックは、暗闇でも必ず開けられるように、両手でチャックを開けるタイプのものを、ザック中央から開封できる状態にしておく。
- ・チャックは、常に中央上部でしめておくことにより、夜間でもザック開封が可能となる。
- ・複数用意する場合もこうしたザックの中身、入れ方を標準化することで、誰にでも利用できるようにしておくことが重要。

複数の防災グッズがある場合は、誰のものを使うのか

- ・例えば家族全員用に防災グッズ(救急・救命)を準備する場合は、有事の際、誰の救急・救命を使うかルールを決めておく。
- ・基本的には、救急・救命が必要な方が所持している場合は、その方が所有している防災グッズを使用する。



浅野講師推奨防災グッズ
サバイバル3原則体力保持可能な必要最小限かつ有事の際に必須



市販の防災グッズ
約15KG、持ち運び困難
サバイバル3原則体力保持不可能

体験学習① 震災後の72時間生きる 講習会の模様



市販品で、防塵服、簡易ダウンジャケット、暖の撮り方をデモンストレーション

コンビニにて市販の雨合羽、手ぬぐい、ヘアゴム、マスクで、防塵服(原発近隣の被災地の方々が指定地域におはいいりになる際に装着されるものと同じ機能をもっています)の作り方。受講者の方々には、こうした防塵服は内部被爆を防ぐものというよりも、放射能(外部被爆)から身を守る、という認識の方も多くおられた。

さらに、同じ雨合羽(またはゴミ袋)、ヘアゴムと新聞紙、紐を使用した簡易ダウンジャケットの作り方、の説明とデモンストレーション。

シェルターづくりについても雨合羽(前ページのBBS推奨防災グッズにある自衛隊仕様のもので2500円程度で一般に購入可能)を用いて暖をとる、日陰を作るというデモンストレーション。麻縄を火種にして火を起こす解説を実施。

いずれも、通常入手できるものを活用したデモンストレーションに対して大変高い評価を得た。

My防災マップづくり

ゼンリン殿のご協力により、マイ防災マップづくりに関わる要点を説明。

有事の際にどのルートで避難するかは、様々な状況下(火災で道が通れない、橋が落ちたなど)で平時の状況とは変わる可能性があり、こうした可能性を念頭におき、地域における自然災害に関わる過去の話やシニアの方々の話にも耳を傾け、マイ防災マップを作る方法を推奨。

今回の講習は、2時間のダイジェスト版であったため触れることができなかったが、My防災マップは、例えば練馬少年ラグビースクールなどの団体においても、準備すべき事項である。有事の際、どのような判断基準とルールをもって、スクールの生徒を帰宅させるのか、あるいは、現地のとどまるべきなのかについて、事前の取り決めが重要となる。My防災マップは運用ルールがあって初めて生命を守ることができるが、運用ルールについては、都度見直すことも重要となる。BBS協会では、有事の際に適切な対処が可能になるよう、講習会を通じて啓発を行う予定である。

主催団体紹介

- NPO法人 ブロードバンドスクール協会

- <http://www.broadbandschool.jp/>

- 設立の背景

2002年から活動していたブロードバンドスクールコンソーシアム(IT企業16社と教育系2団体でつくった任意団体)に参加していた父親たちと、ICT活用授業を実践している教員たちとで2004年に立ち上げた特定非営利活動法人。ブロードバンドインフラを利用し子供達の学習活動や地域のコミュニケーション力・国際力の向上などをテーマにボランティア活動を続けています。2010年からはシニアネット支援活動、2011年東日本大震災を契機に2012年より「震災後72時間を生きる」体験学習を展開。

- 理事長 眞柄泰利プロフィール



1958年 生まれ東京都出身
1982年 ハワイ大学コンピュータサイエンス学科卒
1982年 (株)大沢商会入社
1983年 日本ソフトバンク(株)(現ソフトバンク(株))入社
1985年 (株)会社ジャストシステム入社、一太郎、花子、ATOK の OEM ライセンスビジネス担当
1993年 マイクロソフト(株)入社、プロダクトサポート&サービスデータベース製品サポート課長
1997年 デスクトップ製品統括部部長、ビル・ゲイツ会長より Chairman's Award を受賞
1998年 製品統括部統括部長、BackOffice および Office 製品マーケティング担当
2000年 執行役 OEM 営業本部長
2001年 取締役就任、OEM 営業本部に加え中堅企業チャネルマーケティング、パートナープログラム、地方営業所を担当
2003年 執行役常務
2004年 NPO法人ブロードバンドスクール協会設立・理事就任
2006年 執行役専務 マイクロソフト中国支社中小中堅チャネルマーケティング部門に対してチャネル開発支援
2007年 OEMに加え、コンシューマビジネス統括、CSR を兼任
2008年 同社退職、富士株式会社設立 代表取締役就任
2009年 早稲田大学 WBS 研究センター ソーシャルアントレプレナー研究会特別研究員(現職)
2010年 NPO法人ブロードバンドスクール協会理事長就任、一般社団法人日本中小企業情報化推進協議会会長就任
2011年 富士株式会社退任しファウンダーとなる
2012年 サイバートラスト株式会社取締役COO就任

主な要職: 経済産業省推進事業 IT 経営応援隊副会長、NPO法人 IT コーディネータ協会理事、社団法人日本テレワーク協会、社団法人アジアフォーラムジャパン理事を歴任。Australian Rugby Union (オーストラリアラグビー協会) レベル 1 コーチ。
2005 年および 2007 年「日本の論点」に寄稿。日本におけるソフトウェアビジネス黎明期からその最前線で多くの経験を積む。

講師紹介

あさのりゅういち
浅野 竜一



経 歴:

元千葉県警察官。退官後、米国にて警護及びRisk Management(危機管理)を習得。警備会社にて都内某企業幹部及び複数の依頼主の身辺警護をへて、1997年より株式会社ナイキジャパン危機管理担当部署設立。(長野オリンピック及び2002ワールドカップ ナイキジャパン危機管理及び警備責任者) 2007年株式会社ZOAS設立、代表取締役(現職)。
企業危機管理及び官公庁に対してコンサルティングを提供。

ZOASは防衛省における海外派遣部隊に対するミッショントレーナー兼演習オブザーバー(評価分析担当)として2007年より技術提供及び訓練作成と指導を実施してきました国内唯一の民間企業です。(契約継続中)
2012年からは教育部隊や航空部隊に対しても教育が開始され弊社の技術は幅広く利用されています。

ZOASが提供する講義は全てコンサルティング形式で作成されており、依頼主の希望する内容に応じて作成されます。
主な実施例:

防災カリキュラム

- NPO法人ブロードバンドスクール協会共同プログラム 体験セミナー「震災後72時間を生きる」
- 事業継続計画(BCP)の作成と運用実験における評価分析
- 災害発生時の情報収集と分析

危機管理カリキュラム

- 危機査定の方法と対策の作成方法
- 脅威の分析と対策の整合性
- シュミレーショントレーニング(対処事象別)

防犯カリキュラム

- 企業の安全評価方法
- 驚異に応じたセキュリティの作成
- 安全運用規定(SOP)の作成

ZOAS紹介

本社： 東京都江東区有明東京都江東区有明3-1-25 有明フロンティアビルB棟9階

代表取締役社長 浅野竜一

主業務：

弊社は世界に広がる独自のネットワークから「防衛と安全」に関する情報及び最新の技術を手し、

①警備コンサルティング ②情報提供 ③官公庁や法執行機関への技術指導 ④防衛関連設備・装備の提案などを主業務とした国内唯一のセキュリティーコンサルティング企業です。

4つのコンサルティング事業

1. 企業に対する危機管理コンサルティング
2. 警備・防衛設備に対するご提案
3. 官公庁への技術提供
4. 警備会社の業務コンサルティング

全ての事業が“単なる提案や技術提供”ではなくコンサルティング(情報収集と分析から探し出した問題点に対する解決策の提供として提供されます。



ZOAS 4つのコンサルティング事業紹介

■危機管理コンサルティング事業

一般企業に対して、危機管理コンサルティングを提供しています。弊社の提供するサービスは

- ①危機管理コンサルタント常駐による
リスクコントロール
- ②企業の警備計画を見直し“効果”を追求する。
- ③メディア対策(トレーニングも併用して提供)
- ④企業内における段階別危機管理研修
- ⑤警備会社向けオペレーションコントロール

■官公庁への技術提供

(トレーニング & コンサルティング事業)

設立時から、陸上自衛隊への技術提供を実施しております。

過去に提供してきた技術は、斥候術(野戦用技術)や格闘技術でしたが、現在は、各種オペレーションに対するトレーニングや戦術を提供し、最新のテロ情報から、その対策や警備方法の提供しています。

弊社は某部隊の演習オブザーバー・ミッショントレーナーを務める国内唯一のコンサルティング & トレーニング企業です。

ZOAS

■防衛・警備設備の導入提案

警備・防衛に関する新しい設備の導入の国内重要防護施設等に対して、リスク査定を通じ、

- ①目的に適した設備の選択
- ②導入によるメリット・デメリットの検証
- ③適正な導入方法と時期
- ④導入に伴う警備計画の変更
- ⑤導入時の警備計画の運用 等

設備・装備の導入をプロジェクト化し、導入される製品の“効果と成果”を検証します。

■警備会社の業務コンサルティング

警備会社を経営者の方々が悩まれる“警備会社が抱える人件費とお客様が要望される警備仕様の不一致”を危機管理を通じた手法で解消します。

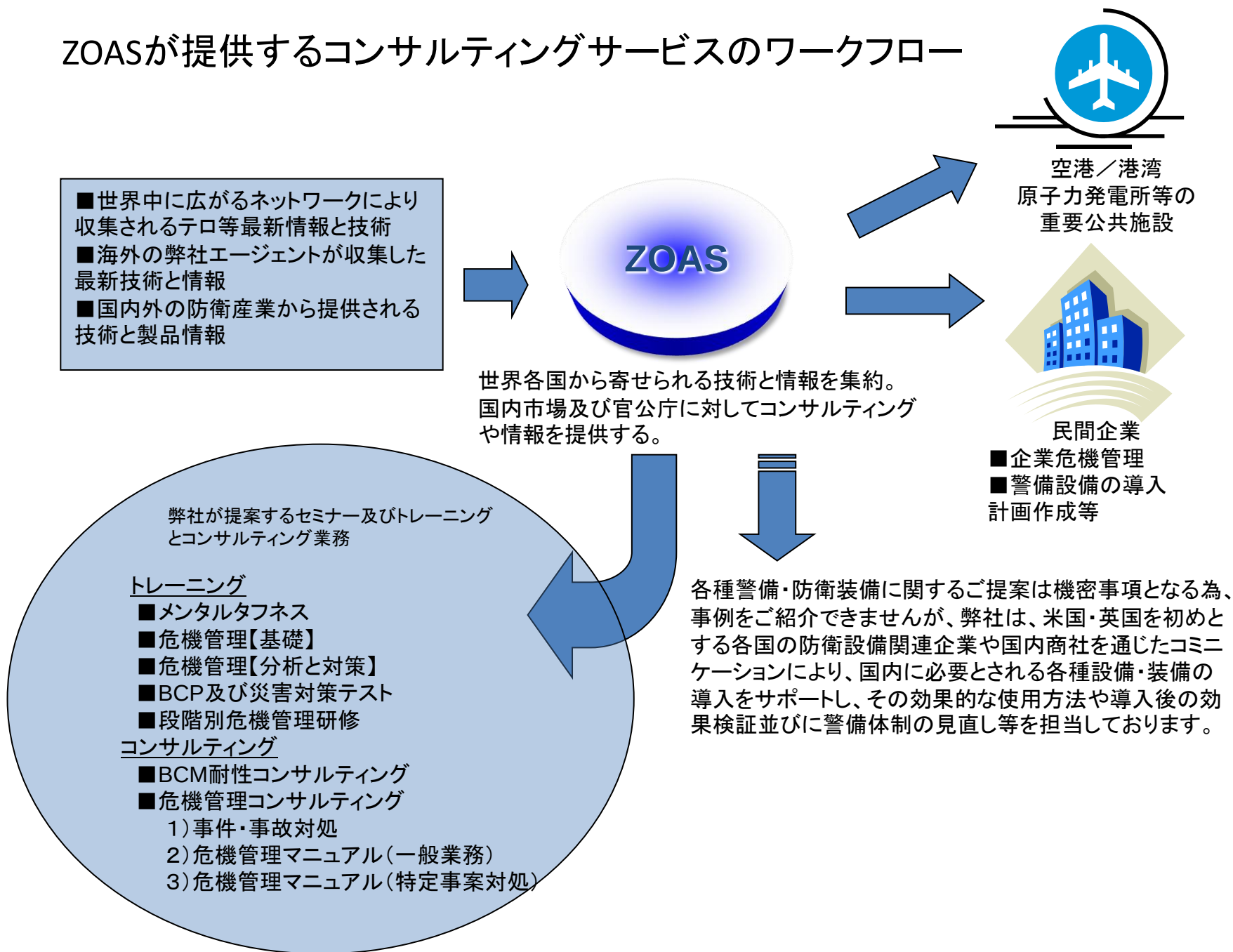
弊社の提供する解決策は、

- ①リスク管理を通じて行なう適正な警備体制の構築
- ②危機管理コンサルタントとセキュリティーの連携による、
効果的且つ高品質な警備の実現。

です。

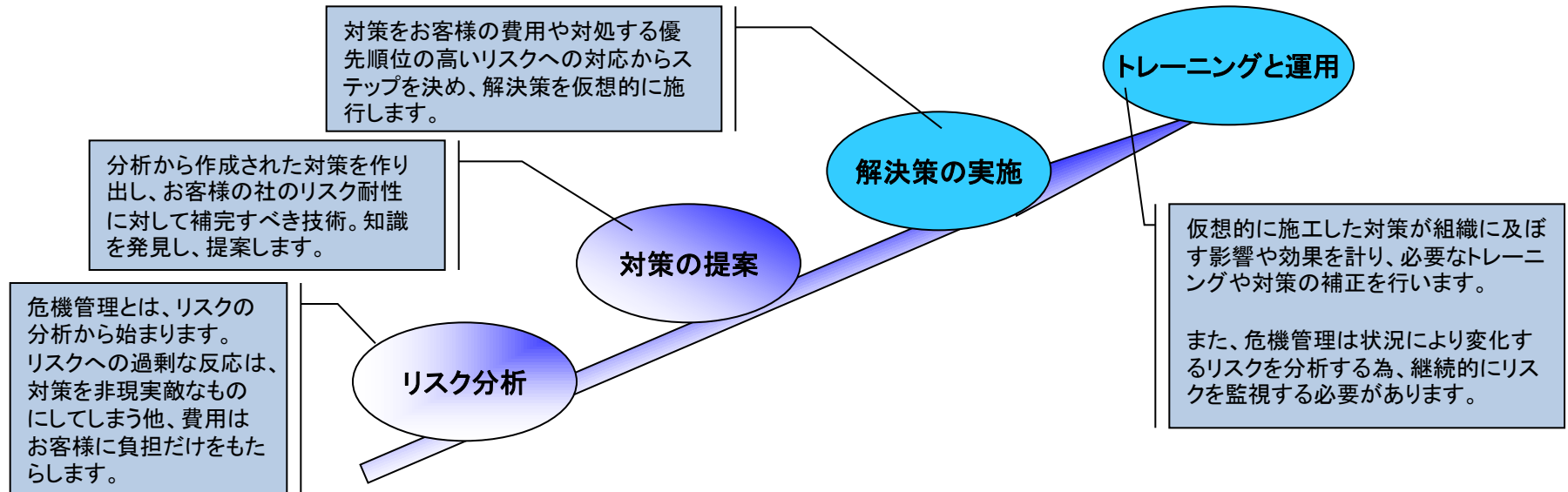
また、弊社と業務コンサルティング契約を締結している警備会社とは弊社依頼主に対する物理的なリスクを解消する為のセキュリティー業務を依頼し、相互利益を目指しています。

ZOASが提供するコンサルティングサービスのワークフロー



ZOASが提供する危機管理におけるアプローチ

ZOASが提唱する適切な危機管理とは
【リスク分析→解決策の提案→解決の実施→トレーニング→運用】
のフェーズからなる目的への適切なアプローチを作り出すことです。



危機管理における一番の怖さは、現実から目を逸らしてしまう「認知バイアス」と言えるかもしれません。
弊社は、社会心理学や情報分析など多くの技術を取り込み、お客様が直面する問題に対して、適正な解決策を提案します。

また、危機管理による効果を追求する為には、BCPや危機管理マニュアルによる単純化された計画に頼る事は危険であり、BCM(Mはマネジメント)による運用を考慮した、組織のストレス耐性テストやメンタルタフネスなどをトレーニングとして実施し、「惨事に耐える機能を拡充する」必要があります。